

事業所名

療育サポートセンターセンター KOTOIRO宗像  
(児童発達支援)

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和7年

2月

1日

法人(事業所)理念		『心が動いて身体も動く』子どもの成長・発達にとって「楽しい」や「やってみたい!」と思える経験は、とても大切な栄養素になります。楽しいからやってみたい!と心が動くと自然と身体も動きます。子どものわくわくする心を大切に療育を行います。						
支援方針		『K0:子どもに個別に向き合う支援を TOIRO:十人十色に適切で多種多様な専門支援を』 医療的ケアの必要な児、肢体不自由を持つ児、発達につまづきを持つ児など十色な子どもたちへの支援として、専門職の専門的支援・複数の専門職がチームでサポートします。 0歳から18歳まで一貫した支援をするために個別療育と集団療育と地域連携を大切に、子どもを中心に関わる『保護者・先生・療育スタッフ』が共育ちで共に成長しながら、子どもの成長を促していきます。						
営業時間		8時	30分	17時	30分	送迎実施の有無	あり (なし)	
支援内容								
本人支援	健康・生活	1日、1週間、1か月の生活リズムを作る医療的視点・発達の視点・育見的視点から環境設定やアドバイを行います。食事、更衣、排泄など生活に必要な能力の獲得を目指します。食事は、哺乳、離乳食の食べ物を口に取り込む・処理する・飲み込む口腔機能と自分で食べるための姿勢や上肢操作へアプローチしていきます。						
	運動・感覚	発達検査に基づいた評価のもとアプローチを行い、頸座、寝返り、起き上がり、座位、立ち上がりなどの基本的な床上動作の獲得を促します。未獲得な運動スキルを補い、活動性を上げるための姿勢保持の道具や環境設定のなかで、リズムや縄跳び、器械運動など協調的な運動組み立てる力の獲得を目指します。 感覚検査に基づく評価のもと、個々にあった環境設定や支援方法を用いて一人一人が安心して楽しめる遊びや活動を提供していきます。						
	認知・行動	遊びの中に月齢や発達段階に合わせた課題を提供し、物の名前・用途、数の概念、見て理解する力(視知覚認知)傾聴する力、状況に合わせて動く力など基礎的な認知機能から、集団生活で必要となる認知機能及び行動する力の獲得を促していきます。						
	言語コミュニケーション	乳児時期より、コミュニケーションの基礎となる『三項関係』の構築を図るために、ふれあい遊び、やり取り遊びを取り入れながら他者意識を高め、伝えたい気持ちを育てていきます。また、発語に必要な口腔機能を用いる遊びを取り入れ、音を聞き取る力・聞き分ける力・作る力などの獲得を促し『言語を理解する力』『言語を表出する力』を促していきます。						
	人間関係社会性	乳児時期より、コミュニケーションの基礎となる『三項関係』の構築を図るために、ふれあい遊び、やり取り遊びを取り入れながら他者意識を高めて、他者との共有・共感性を育てていきます。情緒面の課題を評価し、個々にあった気持ちのきりかえ方、落ち着きやすい環境、感覚刺激の調整などを行い、療育環境、生活環境を整えて自己認知・自己肯定感を育てていきます。						
家族支援		家庭でできる発達を促せる遊び方、情緒面の課題に対する環境の作り方、日常生活動作(食事、着替え、排泄動作など)のスキル獲得できる関わり方をその都度相談・アドバイスを行います。 毎月保護者会を実施し、保護者勉強会や交流会を実施。家族支援として兄弟児の相談・アドバイスを行います。			移行支援		所属している園や就園先と情報交換等連携しながら成長を促していきます。また、保育所訪問支援事業を利用している児では、基本月2回園を訪問し、療育での様子や情報提供と園の保育に適応しやすい環境設定や理解しやすい提示方法など伝達し、大集団の中でも学びやすい環境を支援します。	
地域支援・地域連携		医療機関・行政(福祉課・教育課・子ども家庭課など)・他療育施設・相談支援とその都度連携を図ります。現在、宗像市学校看護師配置事業委託、志免町乳幼児健診相談事業委託、新宮町運動発達相談事業委託、を請け負っています。			職員の質の向上		自己研鑽応援支援制度として、研修費一部補助。 週一回研修日及び、年5~6回午後より研修	
主な行事等		年に5~6回土曜日特別開所にて親子療育実施 プラネタリウム、染め布でのトートバック作り、先輩保護者の会と運動療育、ミカン狩り、映画鑑賞など						